

令和2年度小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 総括表

法人名	社会医療法人清風会	代表者	森 崇文	法人・事業所の特徴	医療法人ということで法人内の医療機関（在宅支援診療所・地域包括ケア病棟）、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所との連携が取りやすい。スローガンの「住み慣れた町で一緒に自分らしく」を実現するための仕組みが法人内にできている。このメリットを生かしながら、一人暮らしの方でも地域で長く暮らしていけるように、訪問介護支援に力を入れている。また近隣の介護施設やクリニックとの連携を密にとっており、医療がすぐ近くにある安心感を持っていただける事業所である。
事業所名	あかるい農村つやま	管理者	小椋 美恵子		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	隣事業所	事業所職員	その他	合計
	1		3					3		8

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	計画に対する目標評価を定期的に評価していく。 情報共有のための手段として、メモの活用方法を改善し記録の充実、情報共有を充実させる。	年末になってあわただしく評価を取り組んだが、みんなで考え話し合いは活発にできた。具体的にどのようなシステムが好ましいのか、結論は出ないままに時間が過ぎた、しかしみんなのアイデアで現実可能なやり方も考えだされた。	具体的なシステムづくりで、伝達がスムーズにできるのではないかと。目標は具体的に立てるほうが良い	8月頃に中間の話し合いを行い、できてない点を振り返る。情報共有手段としては、朝礼時の伝達を充実させる。新たに終礼を実施し伝達を充実させていく。経過記録を継続して細かく書く。帰宅時直前の記録を充実させ、変化があったときはその都度記録する。
B. 事業所のしつらえ・環境	事業所の会報を発行し、その中に実施イベント告知など載せ活用する。地域への認知度を上げるようにする。	会報の作成は取り掛かることができたが地域への認知度アップの活動はできてない。	コロナ禍で行事、イベントの実施ができなかった分、会報誌の発行を各家に配布できるのではないかと。地域のどこにも行けない方、気軽に立ち寄れる場所として機能してほしい。	事業所独自の会報に、イベント告知、お知らせなど入れ各家に配布する。頻度は話し合いで決める。
C. 事業所と地域のかかわり	地域の行事へは引き続き積極的に参加し交流していく。	地域の様子を実際足を運び確認できてないので地域のかかわりがイメージできないスタッフが増えた。	地域の行事もコロナのためできなかったため、来年度は何らかの方法で開催したい	コミュニティーで行っている、「こけのない体操」に参加してみる。担当利用者さんの地区の体操に参加し地区の方との交流をする。
D. 地域に出向いて本人の暮らしを支える取組み	地域のインフォーマルサービスや資源をわかりやすくマニュアル化し活用する。マニュアルは全スタッフ分担し作成する。	前回の計画はできなかった。引き続き課題とする。	引き続き取り組んでほしい	地域の資源をまとめる。全員で取り組む。
E. 運営推進会議を活かした取組み	他の事業所と交流し、情報をいただきつつ運営推進会議に活かしていく。	コロナ禍で地域の行事も次々中止となり他施設への見学も自粛した状況だったため行き来できなかった。	引き続き頑張ってもらいたい	オンライン研修や、オンラインでの情報交換に積極的に参加する。
F. 事業所の防災・災害対策	地区の防災訓練に参加させてもらう。地域の有識者の方の意見を伺い参考にしていきながら利用者の個人避難計画を作成する。	利用者個人の避難計画作成に至らなかった。地区としても訓練ができなかったため継続課題とする。	避難訓練の時は、通りがかりの人に声掛けし協力を依頼することも必要。災害時助けてもらうことは経験上ありがたかったとの意見を頂いた。	地区との避難訓練は継続課題。区長さんに協力依頼をする。個人の避難計画を作成する。